

「願いと決断」

～あなたは正しい決断をする責任がある！～

ヨハネ5：2-16

■ 大事な事

私たちは1人の小さな決断が大きな出来事となることを知っています。例えば戦争。今日は長崎に原爆が落ちた日です。もし悪い決断による力（戦争）がこれだけ大きな力を持っているならば、みんなが良い決断をし、それが合わさったときの力はどれほどのものでしょうか。

今、私たちは願いや夢を持つことをとおして人生に向き合っています。人の生き様をみて自分はどう決断するか、どう生きるかを学んでいます。もし、あなたに対して牙を向いたりあなたの人生に問題を与える人がいたりするとき、あなたはどうか考えているでしょうか。私たちは今日という大事な日に、聖書を基として考えていかなければいけません。

■ あなたはどのような生き方をしていますか

私たちには「責任転嫁をし、諦めと過去に生きる人」（タイプ1）と、「自己義で過去のルールと保身と排他に生きる人」（タイプ2）がいます。

ヨハネ5章にでてるベテスダの池で長年病気を患っていた男はタイプ1といえます。イエス様は彼に対して「よくなりたいか」と尋ねていますが、その会話は嘯み合いません。なぜならその男はイエス様の質問に対し、自分がよくなる理由（言い訳）を話したからです。彼はできない理由を探しては言い訳し人生をダメにしていたのです。

そんな彼に対しイエス様は「起きて、床を取り上げて歩きなさい」と言われます。この床とは人のせいにしてきた過去のことを指し、このことから離れなさいという意味でした。またイエス様は彼に「あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」と伝えます。これは感謝がなく、いつも人のせいにして生きてきた生き方をいつまでも変えないならばどうなるか…たとえ病気が治ったとしても、イエス様によって救われたとしても元に戻るなら今度は永遠の命が失われるという意味だったので

す。私たちクリスチャンは過去の古い自分に死ぬ（＝床を取り上げて歩く）生き方をするようにと神様から言われています。しかし、あなたの中にいつまでも責任転嫁を繰り返し、過去ばかりをみる人生を続ける自分があるならば、あなたは滅びへと導かれてしまいます。私たちは自己中心でどうして私がこんな目に会うのか…という思いを持ってしまいます。原罪を持っている私たちが初めから自己中心な古い自分を捨てて歩むというのはとても難しいことです。ですが、そんな思いに打ち勝ってそれができるように行おう、戦おうとする心をもって立ち向かう姿を神様はみておられます。ですから、目を開いてあなたの人生と向き合しましょう。自分の思うようにならない時どう決断するかを問われています。あんな人いなさやいのに、こいつのせいで…と思わせる思い、いくら言われても嫌なものは嫌と思ってしまう心、同じ事を繰り返し、自分を逃避させ過去に戻ろうとさせる悪い床を、今日取り去る決断をしていきましょう。

そのためにもイエス様が十字架にかけられた理由をもう一度確認しましょう。パリサイ人がユダヤの律法によって死刑を求めたとき、なぜイエス様が当時支配していたローマの律法によって「私にどんな罪があるのか」と言わなかったのでしょうか。もし彼がその事を言えば十字架にかかる理由はなかったのです。しかし、彼はどの言い訳もせず十字架にかかりました。それはただ、あなたの罪・咎を背負うためでした。あなた自身はどうでしょうか。今までの人生を振り返ると、教会に来てずいぶん変わったのではないのでしょうか。このことを神様に感謝し、これからの自分の使命とイエス様の御主に成長するために彼の一部分を担おうとする心を持っていこうではありませんか。

また、タイプ2の人は本来リーダー性があり世の中変えたいと思っている人です。しかし悪魔はその人の本来の長所が壊されるように働きます。問題に気づきそれを良くしようという気持ちで自己義に変えられてしまうのです。パリサイ人もユダヤ

をもう一度何とかしたいと願っていた人たちでしたし、イスカリオテのユダもそうでした。しかし、大事なときに自分と正しく向き合い行動できなかったのです。どちらのタイプもその人が正しく生きれば素晴らしい御業が残ります。判断を間違えそうになるとき、ここぞという時に私たちは正しい決断をしていきましょう。

■ ①感謝による正しい決断

私たちが感謝できない環境の中で感謝することを神様は願っておられます。感謝することが大前提です。ダビデは自分の愛する王様に国を挙げて敵とみなされても、どんな虐げを受けても、神様のしてくださった良いことを何一つ忘れることなく自分の人生と正しく向き合いました。神様はダビデを特別よく造られたわけではなく、私たちも同じように素晴らしく造られました。大事なのは問題が起きたときに逃げないこと、悪口を言いたくなる時に言わずに向き合うことです。

あなたが関わっているところでもし何かうまくいかないことがあるならば、私たちには聖書という正しく行動するための鏡が与えられているのですから、これに照らし合わせ問題に向き合い決断していきましょう。

■ ②責任転嫁しない

あの人のせいでこうなったという思いや、自分は悪くないという考えを止めなければいけません。責任転嫁は聖書では最大の罪といわれています。同じように神様よりあなたを一番にする偶像礼拝の罪や、自己中心な思いも取り除きましょう。そして、みことばを持って自分の人生がどうあるべきか神様に願いましょ。1995年の全米ミスとなったヘザー・ホワイトストーンさんは、障害を持ち壮絶な人生を歩んでいましたが、ピリピ4:13のみことばによって人生を変えることができました。今ある困難はこの先の収穫のための台風のようなもの。必ず乗り越えられると信じて歩みましょう。

■ ③過去に生きない！！

イエス様ならどうするかを考え、過去に死んで新しくなりましょう。神様はあなたが取るべき行動を伝えてくださっていますから、絶えずその時その時のベストを尽くしていきましょう。また、互いに励まし合い、立てあげていきましょう。あなたが教会へ導かれたのは本当の姿に戻るためです。なにより神様の計画を進めるか、壊すかを決断するのはあなたです。今までのやり方を捨てていきましょう。

最後に

あなたが正しい決断をしていけばあなたの周りの人も変わります。私たちのために聖書の正しい教えと神の愛を伝えてくださった先人の思いを継いで私たちも正しい決断をしていきましょう。